

NEW WAVE

ニューウェーブ

44号

2017.3
発行

特集

「YOKOSUKA 男性看護師会」への
男女共同参画市民サポーターのインタビュー



ソレイユの丘

編集後記 ～インタビューを終えて～

- ・・・男女共同参画市民サポーターの有志がインタビューおよび記事作成を行いました。
- 一般社会とは逆の女性中心社会の中で人の命に与る医療看護に一生を捧げようという初心を貫いて励む男性看護師たちの姿に深く感動しました。彼らに加わることで和んだ職場雰囲気には好転するという効果もある由、男女どちらか一方が中心の社会は生物学的な男女の脳（精神）の非完全同質性に基づく少数側の居心地の悪さが避けられず、男女共同参画の普遍的な必要性が痛感されました。（関 昌夫）
- 男性看護師さんは前例のない職場で後輩のため道を広げ始めました。その責務への強い思いと頑張りにより頭が下がります。多くの男性看護師さんが両親看護師という環境、そして社会人経験をしている為でしょうか、女性だけの時より職場が柔らかくなったといわれるそうです。男女バランスよく職場に必要なことも分かりました。何処の病院でも沢山の男性看護師さんの姿を見る事を願っています。そしてどの仕事でも男女協力しそれぞれの優れたものを認め活かせることが男女共同参画だと思います。（伊東 明美）
- 男性看護師会は勤務先や年齢の違うココのつながり、イクメンうつも増えてきている昨今、とても素晴らしいネットワークだと思います。他の職業を経てから看護師になられた方も多いようで、生涯の仕事としての覚悟や責任感の強い男性が、女性だけだった職場の雰囲気を和らげたり、病む人々にやさしい対応がされているのだと感じました。ますます男性看護師さんが増えますよう期待します。（太田 幸枝）

平成28年度 男女共同参画に関する標語・写真の入賞作品紹介

標語入賞作品

(敬称略・ニックネームあり)

父と母 協同くらし 子の手本	八木 一龍
共同の 心を繋ぎ 次世代へ	太田 幸枝
家エプロン 会社でスーツ ママ変化(へんげ)	月小町
シェアーして 守る家庭に 笑いの輪	すかっこ
保育園 雨風負けずに パパと行く	石川 勝章

写真入賞作品

(敬称略・ニックネームあり)



ねえ、ばば、私の事も見てね★ (なな)



今日もお父さんが一緒にプール (八木 一龍)



GO! GO! とーちゃん!! (梅澤 葉子)



共同みこしで夏祭り (川口 忠男)

誰もが性別に関わらずお互いを尊重し、共に支え合っていくことのできる「男女共同参画社会」について考えるきっかけとするため「男女共同参画に関する標語・写真」を募集しました。

標語32作品、写真4作品のご応募をいただき、厳正な審査の結果、標語部門5点、写真部門4点の入賞作品が決定しました。たくさんのご応募ありがとうございました。

女性社会に参画した男性看護師たち

これまで「女性の仕事」と見なされてきた看護師の職場に、近頃は男性の姿が見られます。横須賀地域の看護師数約3800人のうち、男性看護師は約260人で、6.9%を占めており（2014年末時点）、さらに増加傾向にあります。横須賀地域の男性看護師が集って「YOKOSUKA男性看護師会」（以下「男性看護師会」）が平成28年8月3日に発足しました。今後はネットワークを広げて、現役の男性看護師や男性看護師を目指す学生などの支援につなげたいとしています。そこで、男性看護師会会長ほか3名の方々に男女共同参画市民サポーターがインタビューしました。



左から 青木隆志さん、小林覚さん
羽布津千裕さん、相内隆志さん

Q 自己紹介をお願いします。

- 男性看護師会の会長です。横須賀共済病院整形外科で看護主任をしており、看護師14年目39歳です。
- 社会人を経験後看護師になって横須賀共済病院を経てナーブケアクリニック・在宅医療分野で勤務中。看護師会の広報担当です。
- 市民病院の呼吸器科、血液内科に勤務。看護師6年目27歳、看護師会の会計です。
- 横須賀共済病院整形外科1年目23歳です。趣味のバスケットボールをオフに楽しみます。

Q 看護師になった動機について

- 母が看護師で身近に医療看護の世界があり、

大学でアニマルセラピーに関わる機会もあり、人のためになる職業への思いが膨らみ、大学卒業後、看護学校に進み看護師になりました。

- 両親が看護師で病院内の寮に住み、周囲が看護師さんばかりでした。一旦は医療以外の分野で働きましたが、看護の道へ進みました。
- 父がレントゲン技師、母が看護師でした。小学生の時、バスケットボールの試合後いれんをおこした際、いつもの母と違う看護師としての母の姿を見ました。尊敬と憧れに変わり自分も看護師になりました。
- 両親はサラリーマン、姉は教師という家庭でしたが、高1の時に、横須賀に大学ができたので健康に関して役立つ看護師を目指しました。

Q 現在担当している仕事や職場環境について

- 現在は横須賀共済病院で整形外科病棟の主任看護師です。看護師25名のうち10名が男性看護師であり、男性の比率が高い病棟です。病院全体では約700人の看護師のうち男性看護師は70人です。本病棟は男性の管理職はまだ師長はなく、主任は2名です。男性更衣室は、最初は間借りしていましたが、今では4

発行/横須賀市 市民部 人権・男女共同参画課 〒238-8550 横須賀市小川町11 TEL046-822-8228
mail:we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp HP:http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2420/gender/index.html

◎この広報紙は12,000部発行し、1部あたりの印刷経費は9.99円です。
◎この広報紙は、グリーン購入法に基づく平成28年度横須賀市グリーン購入調達方針の判断基準を満たす紙を使用し、かつ印刷用の紙へのリサイクルに適した材料(Aランク)のみを用いて作製しています。

エコライフ ← 意識をすれば、必ず変わる → 男女共同参画



インタビューの様子

つに増えました。男性は業務が出来ているのに自分の中で納得できないと認めないところがあります。女性どうしに比べるとコミュニケーションも上手に取れないので、同期の女性達よりも出足が遅れてしましますが、一度覚えると上達は早いです。男性は社会人を経験して看護師になる人も多く、ほとんどの人が生涯の仕事としています。全体数が少ない男性の提案は前例がないとして受け入れられないことが多く、前例を作るのが大変です。

- 同じく整形外科病棟で働いています。1年生なので患者さんの安全面などについてしっかり業務を覚え、勉強中です。
- 看護チームのリーダーです。往診の介助、在宅患者や家族また施設からの連絡対応、クリニックでの処置採血などです。勤務体制は日勤のみで、看護師は3人で、男性は私1人です。
- 市民病院の病棟看護師をしています。私は3交代で勤務しています。男性は2名、女性は26名、チーム単位では男性は私だけで1年目の看護師の教育係です。

Q 家族構成及び家庭生活

- 妻と5歳と2歳のこどもの4人暮らしで共働きです。妻は同じ病院の放射線技師です。病院の保育所は24時間体制で助かります。妻が当直の時は、食事、洗濯など家事は全部私がやります。育児は当直などがかぶらないように勤務調整してもらえるので助かります。
- 妻と高校生の息子と3人暮らしで、妻は子どもが小学生までは専業主婦でしたが、今はデイサービスで看護師として働いています。
- 父母と3兄弟で三男。家族みんな働いてい

るため、家事は毎日交代で行っています。

- 両親と姉、妹が小田原にいます。寮で一人暮らしをしています。

Q 現在の心境について

- 患者さんの笑顔や感謝があると仕事が楽しくやりがいを感じます。変則2交代勤務のため、自由に休みがとりにくいことや、何か相談したいときに男性の先輩が居ないことが困ります。また、患者さんから、おむつ交換などのケアで女性に代わって欲しいと言われたとき、ちょっと寂しさを感じます。加えて、人間関係性の強い仕事なので、コミュニケーション技術の向上に努めています。
- 患者さんやその家族に感謝の言葉をかけられた時に自分が提供している看護に自信が持てて嬉しく思います。一方、医療制度の変化が激しく、患者さんや家族の方に何度も説明する必要があり、大変です。
- 患者さんからのありがたい言葉や笑顔で帰宅する姿を見ると、自分の夢であった看護師になれた充実感を覚えます。命を預かっており責任感を持って一つ一つ考えて行動しています。
- 男女問わず体重のある患者さんや落ち着いた患者さんのおむつ交換など、二人で行うところを一人で任される事が多いと感じています。また、後輩に助言する時、相手が女性だと言葉づかいなどに気を使います。自分の時は今でも男性の先輩に食事をしながら悩みを聞いてもらい助言してもらいます。残業で、家に帰る時間もない時、男性用の仮眠室がなく困ります。夜勤もあるし体を壊しやすい仕事なので健康には特に気をつけるようにしています。

Q 男女共同参画についてどう思いますか。

- 看護師の世界はどちらかというと女性社会の中に男性看護師が参画してきたという他の職業とは逆の構図になっています。しかし、医療側及び患者側ニーズから、男性看護師の必要性が高まると共に、職場の雰囲気も男性看護師の存在により和やかになるというプラス効果をもたらすと報告もあり実感もしています。このように、どの世界においても男女共同参画はそれぞれの立場からのニーズに

も応えるために必要なのだと思っています。

- 男女共同参画社会というと、どうしても女性の社会的立場の向上をイメージしてしましますが、女性が大多数の職場では、女性優位の状況を感じざるを得ません。たとえば、勤務調整の相談が真っ先に私に来る、男性仮眠室が無い、ロッカーの場所が遠いなど職場環境にもはっきりと表れていると思います。しかし、女性中心の社会に属している身としては多数の意向に従うことはある程度しかたないことだと思います。
- 男女共同参画することで物事をいろいろな視点で考えられるメリットがあると思います。
- 女性も働きやすくなるなら良いと思います。

Q ワーク・ライフ・バランス (WLB-仕事と生活の調和) についてどう思いますか。

- 私の病院でも看護部全体がWLBを目標に掲げて目に見える形で取り組んでいます。しかし、看護や医療は倫理的に自己研鑽や奉仕の精神があり、単に仕事として割り切ることが難しい職業だと感じています。そのため、決められた量の仕事というわけにはいかず、急患や患者の様子により残業が多くなることもあります。また、科の特性や患者によっても労働量の差は大きく、精神的・肉体的な疲労も感じやすい職業です。だからこそ、職場環境の改善やWLBの改善に組織全体で取り組むことが大切だと思います。
- 仕事柄残業が多く、寝不足のまま勤務することも多いです。しかし休みの日となれば、当日に仕事が入ることは少なく、趣味の一人旅や習い事が出来るので充実しています。
- 現在の立場上、スタッフのモチベーションを上げるためにはプライベートの充実が不可欠だと考えて、そのための方策を日々模索しています。
- 仕事を始めると時間が途切れず、休みが取れずに疲れがとれないこともありますが、仕事と自分の健康のバランスに気を付けたいです。

Q 今後の抱負についてお聞かせください。

- 個人としては看護師としての成熟度を高め、現場での看護の質の向上に関わっていきたいです。男性看護師会については、横須賀地域

の男性看護師の交流を図り、働きやすい職場環境づくりにつなげていきたいです。家庭では、上の子が小学校にあがるので、出来るだけ子どもに負担をかけないような働き方を、共働きの妻と相談中です。

- 他人に教授できてこそそのプロであると感じています。後進の教育や指導ができる知識と技量を積んでその立場に立ちたいと思います。
- 在宅医療の場で、患者さんや家族が安心して療養できる環境を提供するための連携強化が必要と考えています。職場では働きやすい環境を目指しています。
- 1年目で仕事をしっかり覚えチームの一員になり、2年目になれば後輩も入ってくるので、自分のできることは自信をもってやっていきたい。まだまだ未熟であり、勉強して実務に活かせるようにしたいと思います。

Q 看護師を目指している男性へのメッセージなどお聞かせください。

- 看護師は、人の命と向き合うだけでなく人生にも向き合う大切な仕事で、やり甲斐があります。病院が患者さんにとって、笑顔になれる場所になるように一緒に働きましょう。男性看護師会は、皆さんを全力でサポートします。
- 女性が多い職場ですが、すぐに慣れます。少しでも興味があれば一緒に働きませんか。
- 看護の世界は女性の職場というイメージがありますが、男性看護師が増えていけば現状とは違った発想や社会的地位も変化していくと思います。少数派なので何かと苦労はありますが、私は看護師になって後悔したことはありません。
- 女性の多い職場ですが、少しずつ男性も増えてきて、やり甲斐もあるので、看護師になりたいという気持ちを捨てずに目標に向かって一緒に頑張りましょう。

